



和歌山丸八水産まだい養殖の概要

(認証番号：JFRCA31702A)

和歌山丸八水産まだい養殖の概要

基本情報	
対象者	まるはちすいさん : 丸八水産有限会社
代表者	よしだ としひさ : 代表取締役 吉田 俊久
対象者所在地	わかやまけんひがしむろぐんくしもとちょうおおしま : 和歌山県東牟婁郡串本町大島 1794-9
養殖魚種	: マダイ
養殖方法	: 小割生簀養殖法
養殖漁場	わかやまけんくしもとちょうおおしま : 和歌山県串本町大島・浅海漁場

丸八水産有限会社漁場図



和歌山県広域図



丸八水産まだい養殖のポイント

- 種苗は地先系群を元親として選抜育種された人工種苗を使用。
- いけす台数、飼育密度を極力低くし、好適な漁場環境の維持に努めている。
- 飼育密度を低くすることで、飼育魚のストレス軽減、健康なマダイを安定的に生産。

【地先系群を元親とした種苗の使用】

種苗は全て、地元企業である株式会社アーマリン近大から購入している。この種苗は、近畿大学水産研究所が地元系群である紀伊水道の地先系群を元の親魚として何代も選抜淘汰して作出した完全人工種苗である。親魚の由来、飼育履歴が明らかな種苗を使用することで高いレベルの安心安全なマダイ養殖が可能である。丸八水産では年間 200 トンのマダイを生産している（2016 年度）。

【養殖漁場の環境】

1960 年代の養殖開始当初は漁業者数も多く、飼育密度も最大時は 20 kg/m^3 を超え過密状態にあり、常に環境の悪化が懸念されていた。しかし、持続的養殖生産確保法が施行され漁場改善計画が実行されたこと、飼育魚種が漁場全体でモイストペレットを主体とするブリから EP※1 給餌を主とするマダイに変わり残餌が減ったこと、経営体数も最盛期の 1/5 に減少したことなどから、現在では好適な水・底質環境が維持され、底泥の AVS 値※2 も 1990 年代後半の 1/2 以下（県水試資料）に改善されている。

丸八水産のマダイ養殖においては、飼育密度は通常は $6\sim 7 \text{ kg/m}^3$ （稚魚導入時で 1 kg/m^3 以下、成魚でも 8 kg/m^3 以下）と低く、魚体の健康維持と漁場への汚染負荷防止を念頭に置いた養殖が行われている。

- ※1 EP（エクストルーダペレット）＝エクストルーダを使用して発泡化した配合飼料。粒状なので食べやすく、残餌が少ない。
- ※2 AVS 値＝底質中の硫化物（硫化水素を発生する物質）量。養漁場の汚濁指針として使用され、この値が大きいほど腐敗が進み、低酸素状態である。



40m 漁場（浅海漁場）



川口漁場（大島漁場）

【給餌飼料】

飼料は、稚魚期から成魚まで全て市販のマダイ用人工配合飼料（EP）を使用している。給餌はいけす上に設置した自動給餌機に飼料を規定量投入して行うが、給餌機稼働後一定時間ごとに摂餌状況を確認しながらいけすを巡回し、残餌がないよう適正給餌に努め、環境への負荷軽減に配慮している。



漁具、飼料倉庫

【健康なマダイの生産】

飼育密度を低くし、適正給餌を行うことで好適な漁場環境の維持と飼育魚のストレス軽減がなされ、丸八水産では平成12年以降、大きな被害をもたらした病害は発生していない。稚魚導入から出荷までの養殖期間中の生残率はおおむね90%以上で安定し、健康なマダイを安定的に供給している。